おくれた手紙

月 日 名前

発展（はってん）①

おくれた手紙

転校した親友のゆきから、はがきがとどいたのは十月の初めだった。「新しい学校はどう？お返事待っています。」と書いてある。みさきはすぐに返事を書こうと思ったが、何を書いたらいいか分からず、つくえの引き出しにしまったままになっていた。

十二月に入り、みさきは年賀じょうを選びに、母と文具店へ行った。ふと、雪のけっしょうのもようのびんせんが目にとまった。ゆきが好きだと言っていたもようだ。

その夜、みさきは引き出しからはがきを出した。二か月もたってしまった。今さら書いても、おこっているかもしれない。むねが少し苦しくなった。

それでも、みさきはペンを取った。「お返事がおそくなって、ごめんなさい。」最初の一行を書くと、あとは次々に言葉が出てきた。クラスで始めた合唱のこと、かい始めたねこのこと。気がつくと、びんせんは三まいになっていた。

ポストに手紙を入れると、みさきの心は急に軽くなった。冷たい夜の空気さえ、気持ちよく感じられた。

1 ゆきからはがきがとどいたのは、いつですか。

□□の初め

2 みさきがすぐに返事を書かなかったのは、なぜですか。

ア 何を書いたらいいか分からなかったから。

イ はがきをなくしたから。

ウ ゆきをきらいになったから。

3 びんせんに目がとまったのは、なぜですか。

4 手紙を出した後のみさきの気持ちが分かる一文を、本文の言葉で書きましょう。

ぜんぶ できたら ほしに いろを ぬろう ☆ ☆ ☆

© きりんドリル kirindrill.com